

山歴史散歩 203

流鏑馬サミット
参加団体の紹介①

梅山八幡神社の流鏑馬 (静岡県袋井市)

参加をする近県8団体の流鏑馬を毎月紹介していきたいと思います。第1回は静岡県袋井市梅山八幡神社の流鏑馬です。

静岡県は、現在でも流鏑馬が数多く行われている地域の一つで、現在の流鏑馬処といっても過言ではありません。とくに浜名湖に程近い湖西市内では3か所の神社で流鏑馬が行われています。

遠州・袋井の気候と風土

袋井市は人口8万7千人、東西約15キロメートル、南北約17キロメートル、面積は約108平方キロメートルで、毛呂山町の3倍に達します。江戸時代には東海道の江戸から数えて二十七番目の宿場町として栄えました。

従陸掃の騎射

周辺には掛川、吉田といった茶処がありますが、袋井市の浅羽地域は全国的なメロンの産地として知られています。太平洋に面した袋井市は、日照時間が長く、年平均気温が16から17度と穏やかですが、冬は「遠州の

空つ風」と呼ばれる冷たい季節風が吹くため、実際の気温よりも肌寒く感じるといわれます。



的馬(左)と従陸掃(右)

梅山八幡神社の稚児流鏑馬

袋井市の流鏑馬は、旧浅羽町の梅山地区で行われます。かつては浅羽地区の浅岡八幡、八幡八幡、そして梅山八幡の「浅羽三社」それぞれで流鏑馬を執行していましたが、現在では梅山八幡神社の流鏑馬だけが行われています。

毛呂山町で行われている流鏑馬は、幼児や小中学生が乗り子として登場しますが、梅山八幡神社の流鏑馬も小学生が騎乗しています。

的馬と従陸掃

梅山八幡神社の流鏑馬では2人の射手が登場します。

1人は黒い衣装に身を纏った「的馬」、もう1人は華やかな衣装の「従陸掃」です。ともに顔には化粧を施します。

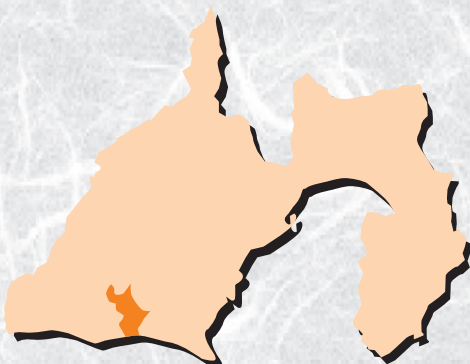
馬場には3つの的が設けられ、的馬、従陸掃が歩く馬の上から3回ずつ騎射を行います。的は薄く細長い

板を広げたもので、的に矢が命中すると馬場に詰め掛けた観衆から大きな拍手と歓声が上がります。

中断から復活へ

梅山八幡神社の流鏑馬は、昭和19年を最後に昭和時代は一度も行われなくなりましたが、平成2年、実に46年ぶりに流鏑馬が復活しました。旧浅羽町が人口増加期を迎え、転入者の地域への関心が旧住人とのコミュニケーションを生み、かつてのお祭りの形を踏襲しつつ、新しい要素を入れながら復活したのです。復活から20年を経た今では、すっかり地域のお祭りとして定着しました。

流鏑馬当日は、この地方で多く見られる二輪の「山車」も繰り出し、華やかで見ごたえがあります。



静岡県袋井市